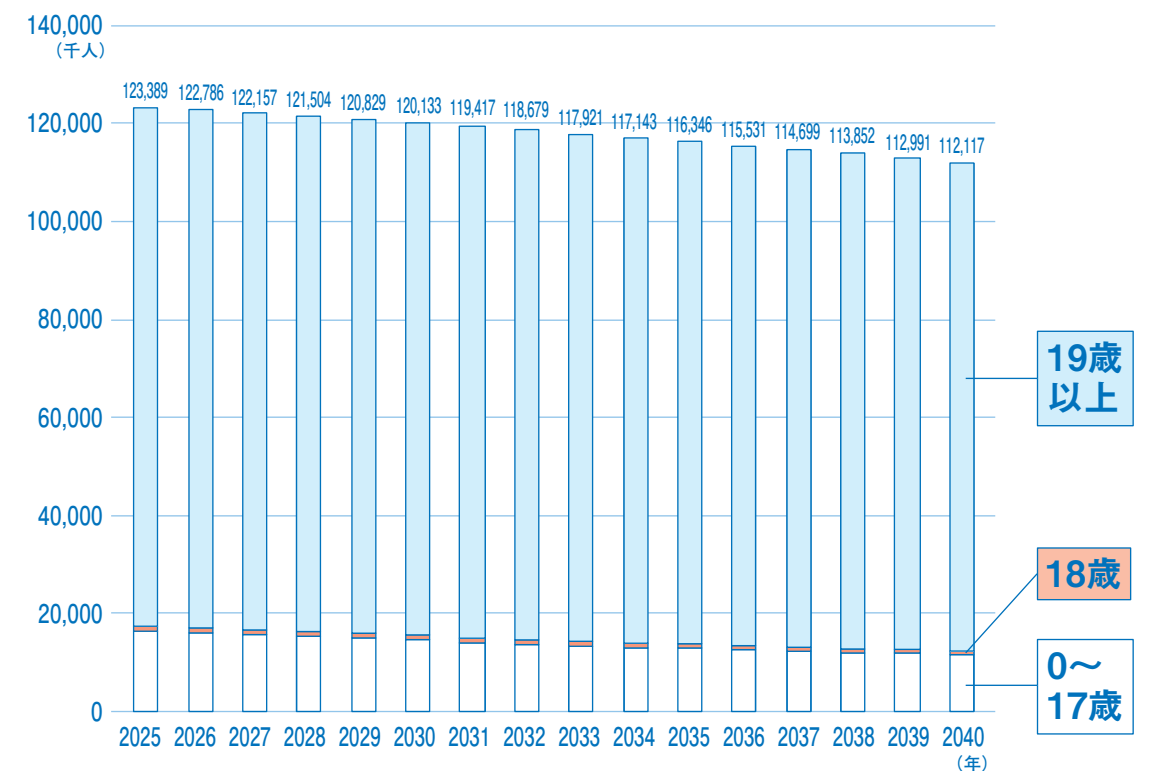


「新しい市場」

～年齢、偏差値、地域を超えて

18歳人口の急激な減少により、多くの大学は今後の展望を描きにくくなっている。
縮小、撤退という選択肢がちらつくものの、「人材育成」という面から対象を拡大すれば、
まだ大きな可能性が残されているのではないか。今こそ、新しい市場に向け、乗り出して行こう。

2025年以降の日本の人口推計



※「日本の将来推計人口 令和5年<出生低位(死亡低位)>」(国立社会保障・人口問題研究所)

縮小する「18歳市場」 だけにとどまるか 拡大する「新市場」に 乗り出すか

「各高等教育機関は、もはや『18歳中心主義』を維持したままでは、現在の規模を確保することができないとの認識が必要である。この認識の下、『18歳』『国内』『対面』にこだわらず、これまで前提として考えられてきた『学生』概念を見直し、多様な学生が入学できるようにすることが必要である」――先ごろ出された「知の総和」答申では、繰り返し大学に「18歳中心主義からの脱却」を促し、その方策として、通信制大学(学部)の可能性に言及している。

現在、日本で通信教育課程を設ける大学は、50校程度で私立のみ。学生数は20万人弱にとどまる。早期から通信制に取り組む大学によると、通信制は「ブルーオーシャン」。年齢も、偏差値も、地域も超えて学生が学びに来る」という。2024年、T H Eオンライン学習ランキングでゴールドを獲得したアリゾナ州立大学の通信制の学生数は、6万人を超える。通信制は近年、社会人にとどまらず、若年層の進学者が増加傾向にあり、通学制から通信教育課程へ

の転籍希望者も増えつつあるという。今後は、18歳市場において、通信教育課程の有無は、重要な大学選びの条件になる可能性がある。

A Iなど、テクノロジーの進化は、教育の進化には欠かせない。上手に取り込めば、新たな市場開拓の扉を開ける道具になり得る。コロナ禍を経てオンライン教育へと移行した通信教育は、そのよい活用例だろう。今回取材した大学の通信教育課程では、社会人や他エリアの学生に加え、海外の学生にもリーチしている。

社会人についてはどうか。あらゆるデータが、日本は「世界二学ばない大人」の国であることを示している。しかし、産業構造の変化や生産人口減少を背景に、一人ひとりの能力を上げるべく、今、国は企業を巻き込み、空前のリスクリングブームを後押ししている。だが、その主要プレーヤーは大学ではなく、民間の人材開発企業だ。さらに競争が激化し、レッドオーシャンたる18歳人口市場だけにとどまるか、あるいは巨大な潜在市場ブルーオーシャンに乗り出していくか。しかし、通信教育であれ、社会人教育であれ参入すれば即成功するような市場ではなく、乗り越えなければならぬ壁も多い。先行して取り組む大学の知恵や市場動向の分析を基に、新たな市場拡大の方策を考えてみたい。

※ 英国の高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が発表する、オンライン学習の質を世界規模で評価・測定するランキング。